

令和7年度

網走市における景気動向調査

<第IV四半期>

報 告 書

網 走 商 工 会 議 所

目 次

第1章 調査要領

1-1	調査時点及び調査対象期間	1
1-2	調査対象	1
1-3	調査方法	1
1-4	回収状況	1

第2章 概況

2-1	全体の動き	2
2-2	業種別の動き	3
1)	建設業	3
2)	製造業	4
3)	卸売業	4
4)	小売業	5
5)	サービス業	5

第3章 業種別設備投資の状況

第4章 業種別経営上の問題点

第5章 原油高について

第6章 業界の景気動向等その他のご意見

第1章 調査要領

1-1. 調査時点及び調査対象期間

- (1) 調査時点：令和8年1月1日（木）～令和8年3月31日（火）
- (2) 調査対象期間：令和8年1月～3月期実施、及び令和8年4月～6月見通し

1-2. 調査対象

網走市に所在する建設業（29件）、製造業（21件）、卸売業（19件）、小売業（37件）、サービス業（43件）の149社を調査対象とした。

1-3. 調査方法

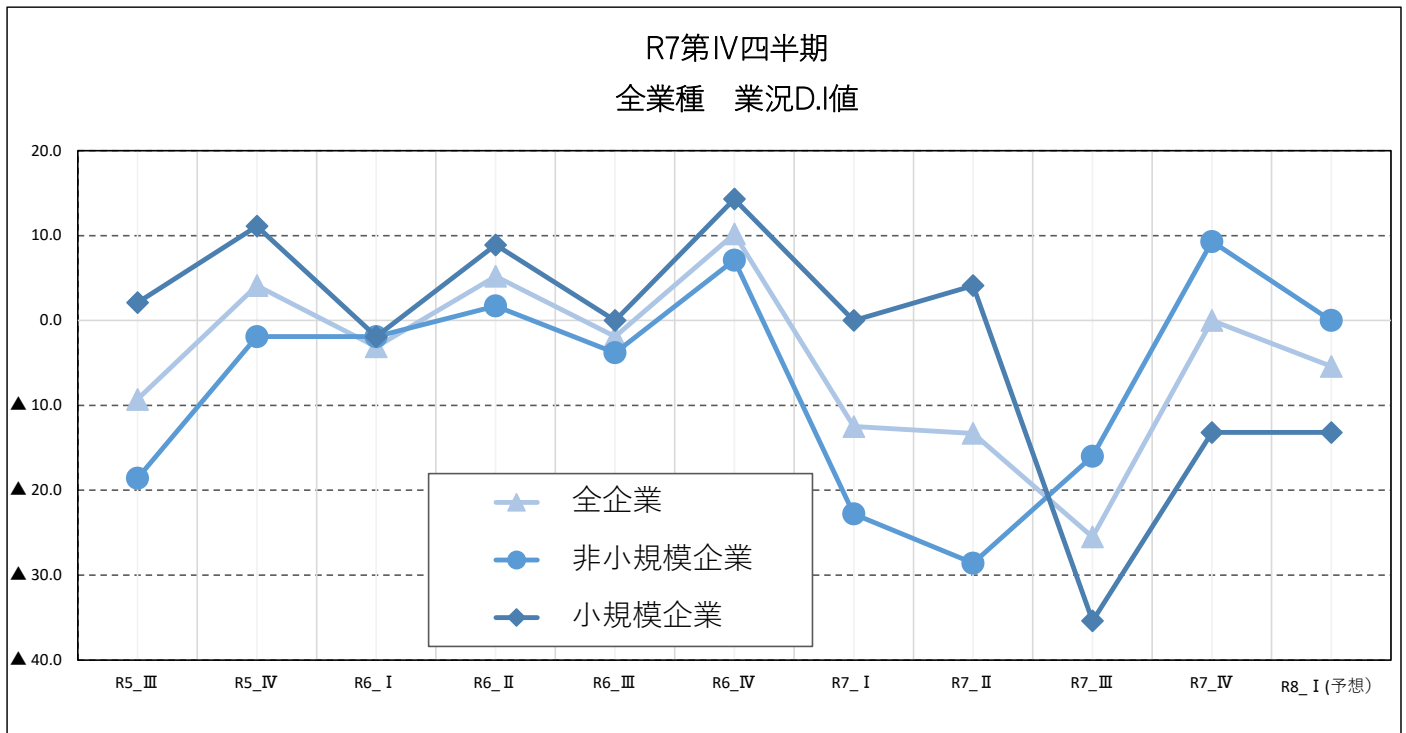
調査対象に案内文と調査票を送付し、FAXもしくは同封の返信用封筒による郵送、インターネット（Google フォーム）による返信にて回答を受ける。

1-4. 回収状況

業種	企業数 対象企業数	回答企業数	回答率
建設業	29件	22件（非小規模企業：13件、小規模企業9件）	75.9%
製造業	21件	13件（非小規模企業：7件、小規模企業6件）	61.9%
卸売業	19件	12件（非小規模企業：8件、小規模企業4件）	63.2%
小売業	37件	24件（非小規模企業：14件、小規模企業10件）	64.9%
サービス業	43件	22件（非小規模企業：13件、小規模企業9件）	51.2%
合計	149件	93件	62.4%

第2章 概況

2-1. 全体の動向



令和7年度第IV四半期（1月～3月）の業況は、前年同月比で「好転企業」25.8%「悪化企業」25.8%で、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I値は±0となり、前回（D.I.値△25.5）に比べ、その差は25.5ポイント好転傾向となっています。

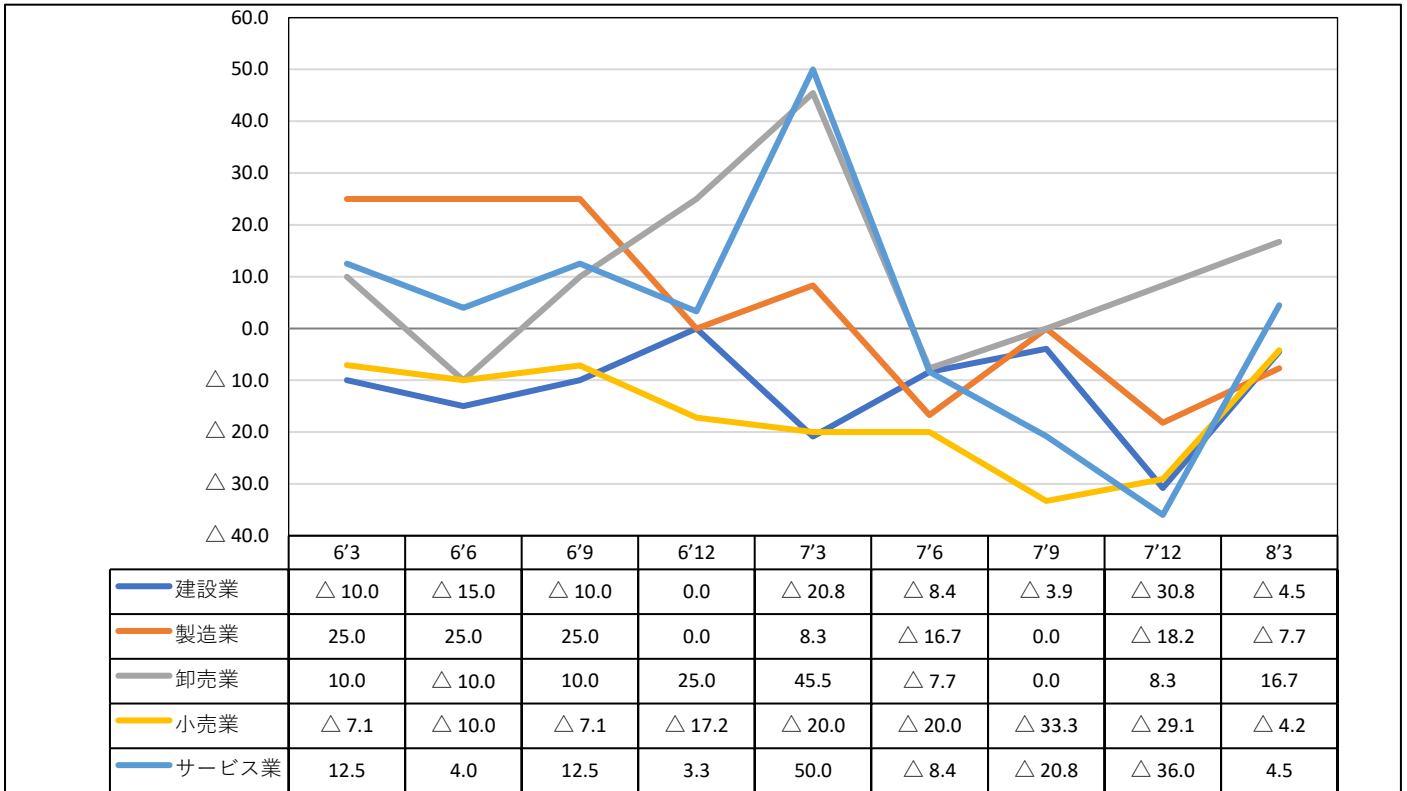
業種別で見た業況は前回比で建設業が26.3ポイント好転し△4.5、製造業は10.5ポイント好転し△7.7、卸売業は8.4ポイント好転し16.7、小売業は24.9ポイント好転し△4.2、サービス業は40.5ポイント好転し4.5となり、5業種全てにおいて好転傾向となりました。

次期（4月～6月）の業況判断D.I値は△5.4を予想しております。業種別では今期と比較し、建設業は今期同様△4.5、製造業は7.7ポイント好転し±0、卸売業は25ポイント悪化し△8.3、小売業は12.5ポイント悪化し△16.7、サービス業は今期同様4.5となっています。

非小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」29.1%、「悪化企業」29.1%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は±0となり、今期（D.I.値9.1）に比べ、その差は9.1ポイント悪化傾向となっています。

小規模企業の次期業況見通しは、今期に比べ「好転企業」23.7%、「悪化企業」36.8%となり、「好転企業」から「悪化企業」を差し引いたD.I.値は△13.2となり、今期（D.I.値△13.2）と比べ、±0となっております。

2-2. 業種別の動向



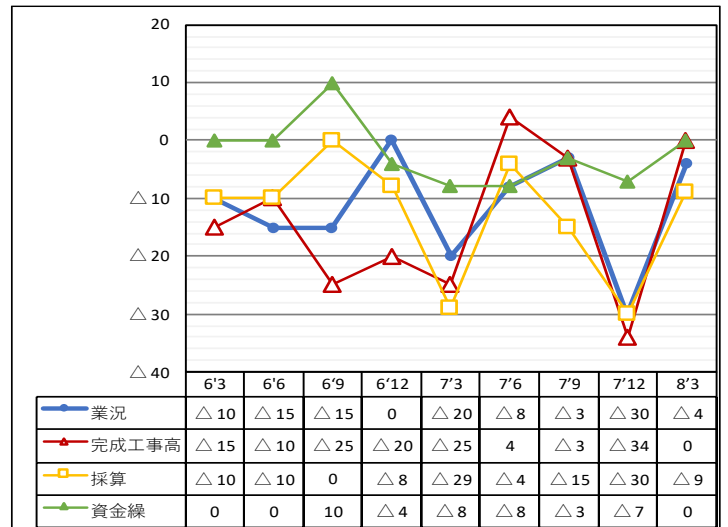
1) 建設業

完成工事高

前年比で「好転企業」22.7%、「悪化企業」22.7%、D.I.値±0と前年同期（△34.6）に比べ34.6ポイントの好転傾向を示しました。

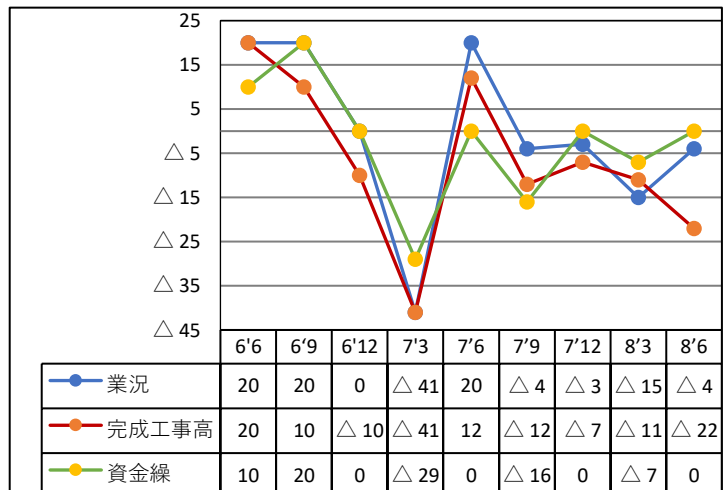
採算

前年比で「好転企業」22.7%、「悪化企業」31.8%、D.I.値△9.1と前年同期（△30.8）に比べ21.7ポイントの好転傾向を示しました。



来期見通し

業況 D.I.値△4.5（今期 D.I.値△15.4）、完成工事高 D.I.値△22.7（同△11.6）、資金繰り 0（△7.7）と今期と比べ、2つの指標で好転傾向を示しました。



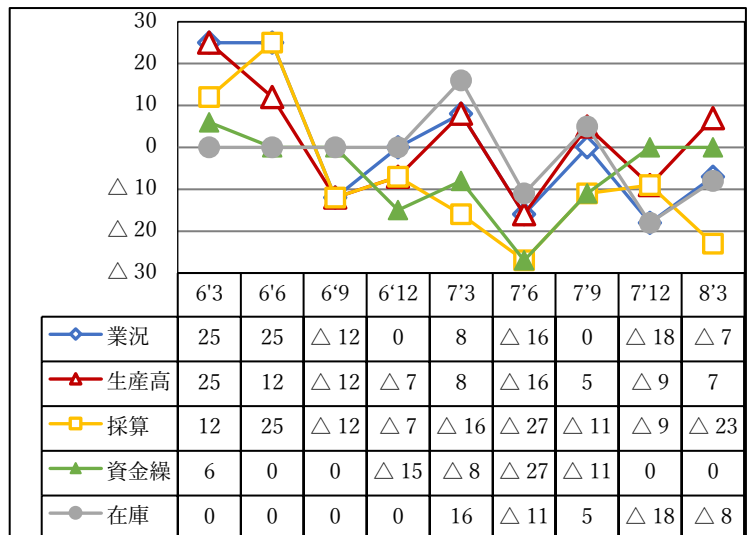
2) 製造業

生産高

前年比で「好転企業」30.8%、「悪化企業」23.1%、D.I.値7.7と前年同期(△9.1)に比べ16.8ポイントの好転傾向を示しました。

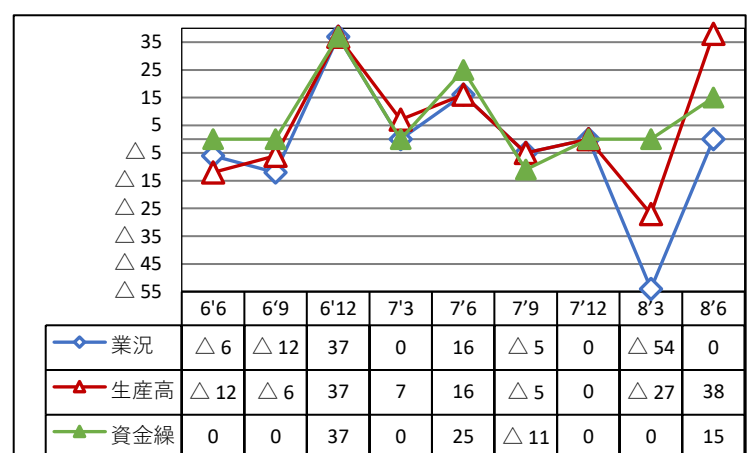
採算

前年比で「好転企業」7.7%、「悪化企業」30.8%、D.I.値△23.1と前年同期(△9.1)に比べ14.0ポイントの悪化傾向を示しました。



来期見通し

業況 D.I. 値 0.0 (今期 D.I. 値△54.5)、生産高 D.I. 値 38.5 (同△27.3)、資金繰り 15.4 (同 0.0) と今期と比べ、全ての指標で好転傾向を示しました。



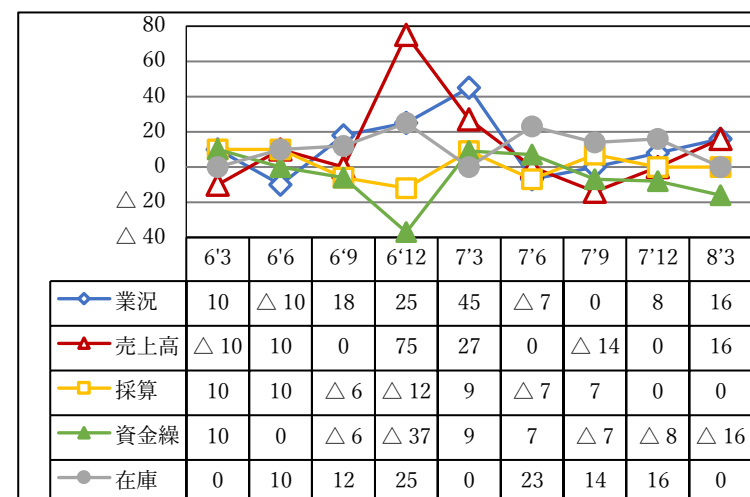
3) 卸売業

売上高

前年比で「好転企業」41.7%、「悪化企業」25.0%、D.I.値16.7と前年同期(0)に比べ16.7ポイントの好転傾向を示しました。

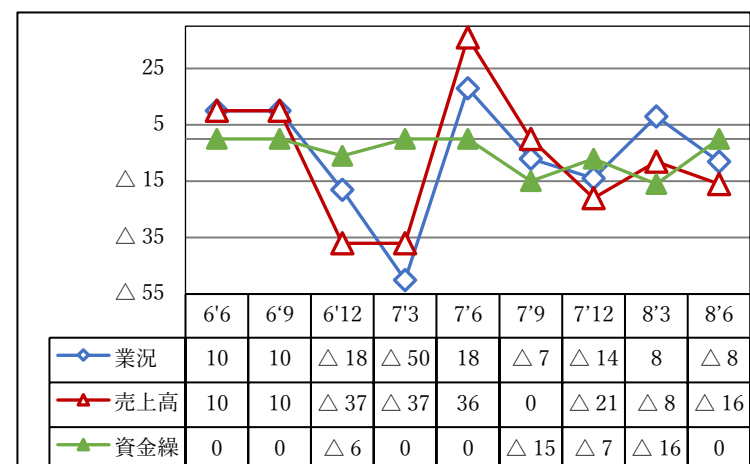
採算

前年比で「好転企業」25.0%、「悪化企業」25.0%、D.I.値0.0と前年同期(0.0)に比べ前年同様の傾向を示しました。



来期見通し

業況 D.I. 値△8.4 (今期 D.I. 値 8.3)、売上高 D.I. 値△16.7 (同△8.3)、資金繰り 0 (同△16.7) と今期と比べ、1つの指標で好転傾向を示しました。



4) 小売業

売上高

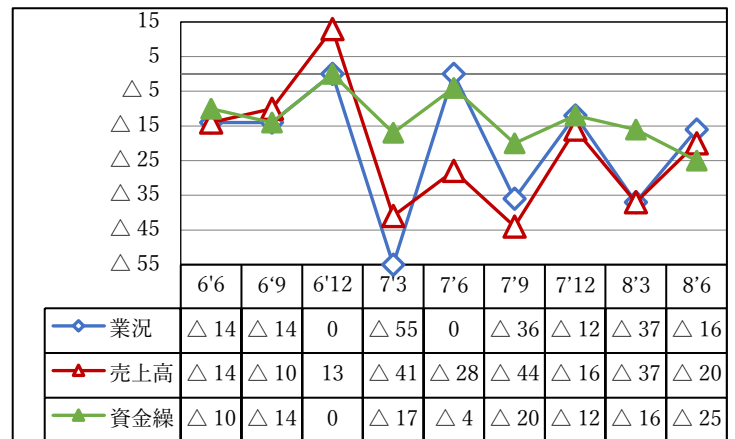
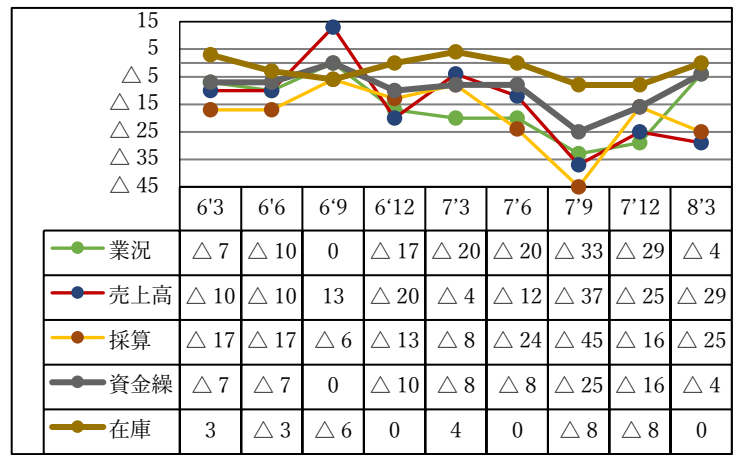
前年比で「好転企業」20.8%、「悪化企業」50.0%、D.I.値△29.2と前年同期（△25.0）に比べ4.2ポイントの悪化傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」16.7%、「悪化企業」41.7%、D.I.値△25.0と前年同期（△16.6）に比べ8.4ポイントの悪化傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値△16.6（今期 D.I. 値△37.5）、売上高 D.I. 値△20.8（同△37.5）、資金繰り△25.0（同△16.6）と今期と比べ、2つの指標で好転傾向を示しました。



5) サービス業

売上高

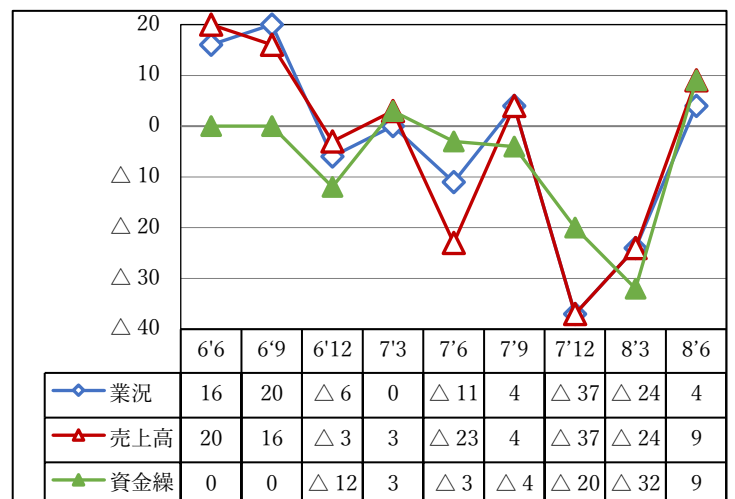
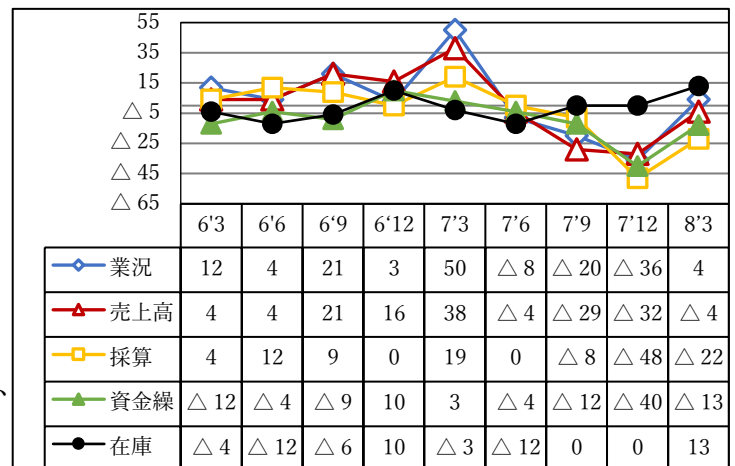
前年比で「好転企業」27.3%、「悪化企業」31.8%、D.I.値△4.5と前年同期（△32.0）に比べ、27.5ポイントの好転傾向を示しました。

採算

前年比で「好転企業」18.2%、「悪化企業」40.9%、D.I.値△22.7と前年同期（△48.0）に比べ、25.3ポイントの好転傾向を示しました。

来期見通し

業況 D.I. 値 4.5（今期 D.I. 値△24.0）、売上高 D.I. 値 9.1（同△24.0）、資金繰り 9.1（同△32.0）と今期と比べ、全ての指標で好転傾向を示しました。



第3章 業種別設備投資の状況

今期の設備投資の有無と設備内容について調査し、業種別に統計しました。

設備投資の有無は表1のとおり、設備内容は表2のとおりです。

表1 業種別設備投資の動向

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
実施した	7件	3件	1件	4件	5件	20件
実施していない	15件	10件	11件	20件	17件	73件
合計	22件	13件	12件	24件	22件	93件

表2 業種別設備投資の内容

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	全業種
土地	0件	0件	0件	0件	0件	0件
店舗	0件	0件	0件	0件	1件	1件
販売設備	0件	0件	0件	1件	2件	3件
車輛運搬具	3件	2件	0件	2件	1件	8件
付帯設備	1件	2件	0件	1件	1件	5件
OA機器	3件	0件	1件	1件	3件	8件
福利厚生施設	0件	0件	0件	0件	0件	0件
その他	2件	0件	0件	0件	0件	2件
合計	9件	4件	1件	5件	8件	27件

※複数回答あり

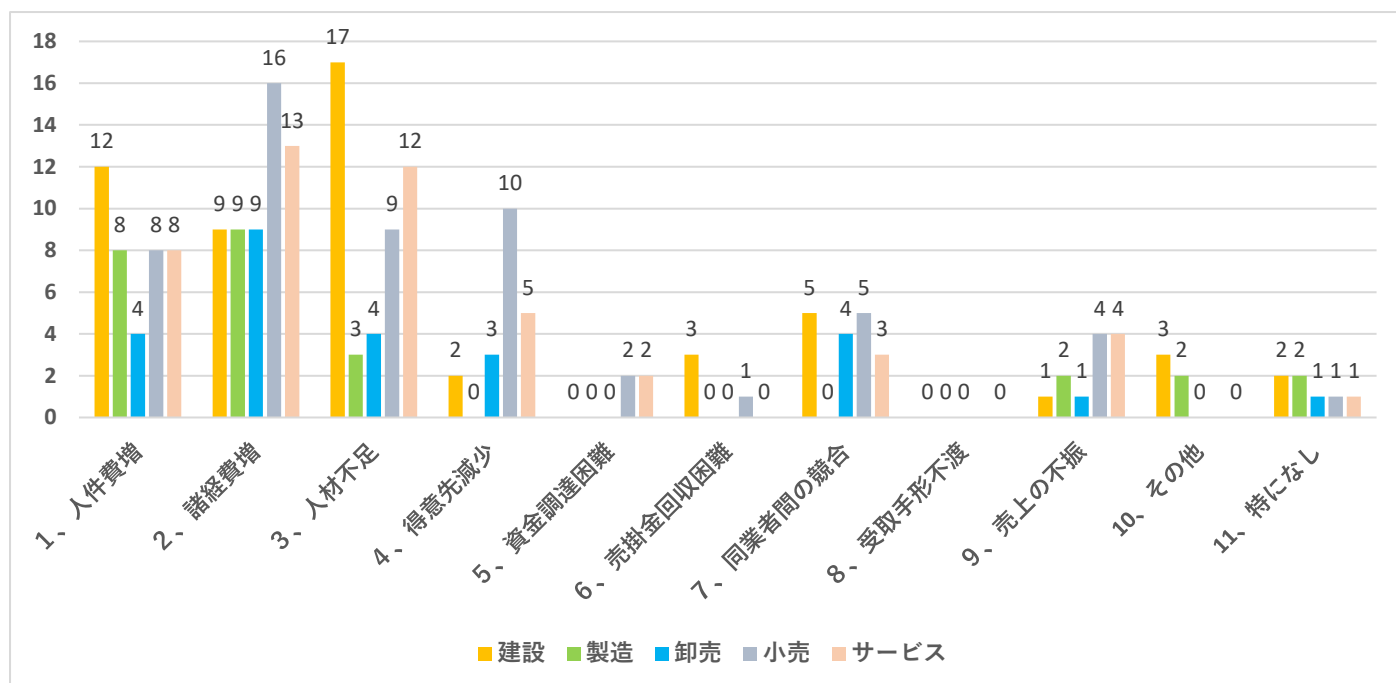
○全業種でみると設備投資を実施したのが20件、実施していないが73件となりました。前回は設備投資を実施したのが20件、実施していないが78件でありました。また、設備内容として最も多かったのは車輛運搬具・OA機器となっています。前回においても車輛運搬具が多く占めていました。そしてその他の内容としてはリフト・中古車輛がありました。

第4章 業種別経営上の問題点

表1 業種別上位

	1位	2位	3位	4位	5位
建設業	人材不足	人件費増	諸経費増	同業者間の競合	売掛金回収困難
製造業	諸経費増	人件費増	人材不足	売上の不振 その他(包装資材の不足) 特になし	—
卸売業	諸経費増	人件費増 人材不足 同業者間の競合	—	—	得意先減少
小売業	諸経費増	得意先減少	人材不足	人件費増	同業者間の競合
サービス業	諸経費増	人材不足	人件費増	得意先減少	同業者間の競合
全業種	諸経費増	人材不足	人件費増	得意先減少	同業者間の競合

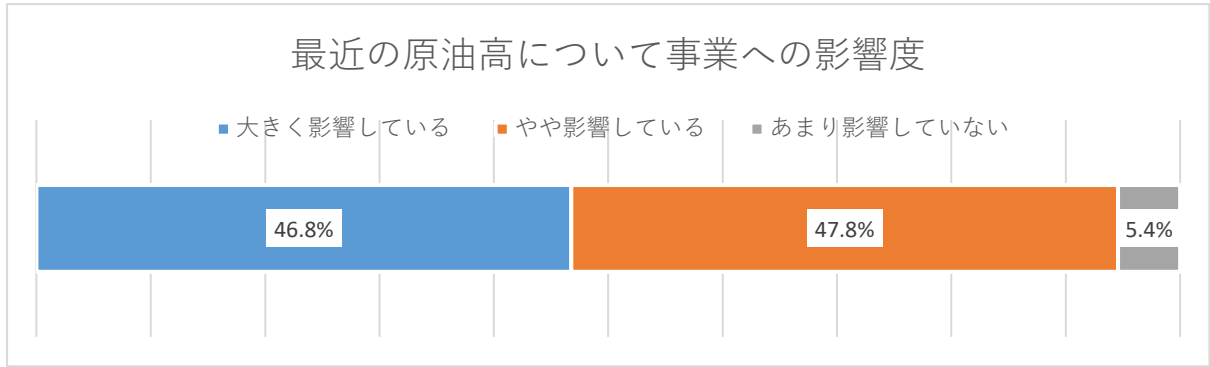
グラフ1 業種別件数



※複数回答あり

○全業種でみると最も多かったのは「諸経費増」でした。また、業種別でみると、「人材不足」、「人件費増」、「得意先減少」が多く占めておりました。

第5章 原油高について

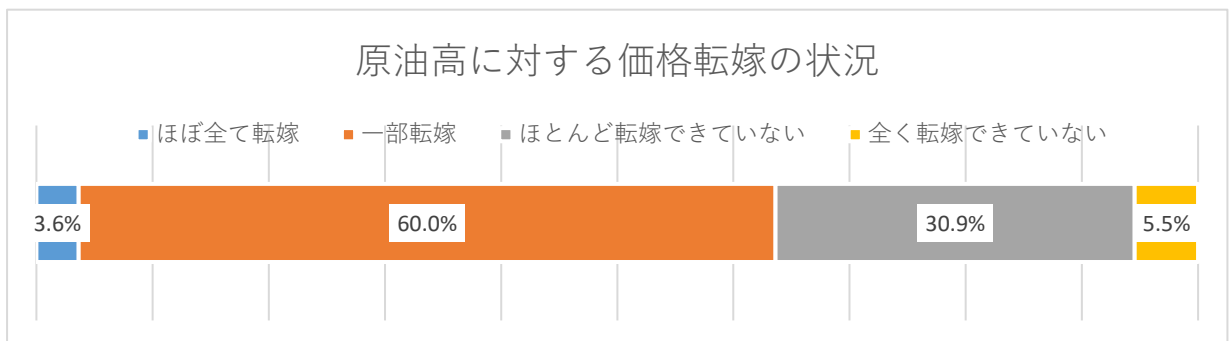


原油高によって影響を受けている項目（複数回答）

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	計
1、燃料費	14	10	9	23	19	75
2、物流コスト	6	10	11	10	6	43
3、原材料価格	16	12	11	15	12	66
4、電気料金上昇	3	3	4	10	10	30
5、販売価格見直しの負担	3	3	5	9	4	24
6、需要の減少（消費者行動の変化）	3	2	2	6	6	19
7、人件費増	4	2	1	1	2	10
8、その他	0	0		2	0	2
	49	42	43	76	59	269

原油高に対して、実施している対応策（複数回答）

	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業	計
1、価格転嫁	10	8	7	15	9	49
2、仕入れの見直し	3	6	4	8	6	27
3、物流効率化	1	2	3	2	3	11
4、節電・省エネ	8	6	5	10	12	41
5、投資の先送り	2	2	0	0	2	6
6、その他	1	0	0	2	0	3
	25	24	19	37	32	137



○今後の事業運営において、原油高に関して最も懸念している点

【建設業】

- ・人口減少
- ・燃料費の高騰
- ・価格転嫁出来るかわからない
- ・注文者の消極的、心理の変化
- ・色々な材料の値上がりの何%UPするのか懸念している
- ・燃料が購入できないこと
- ・原材料の高騰、運搬代金の高騰
- ・資材の高騰
- ・価格高騰
- ・原材料価格上昇と物流停滞
- ・資金の調達困難、価格高騰
- ・利益の減少

【製造業】

- ・資材供給、価格上昇
- ・原材料の値上げと調達度が厳しくなる
- ・包装資材が入らなくなるのではと不安です
- ・包装資材の入手困難による販売不可の恐れ
- ・資材（発泡スチロール）等の入手困難になる懸念がある点
- ・販売価格への転換ができない中でのコスト過大となる為業績影響と運営見直しで懸念事項あり
- ・包装資材の不足

【卸売業】

- ・取引先からの受注減少
- ・中東情勢が今どうなるかにより先行きがわからない状況
- ・配送費については、春分はまだ良いが、この夏以降の秋分の仕様資材については、必ず値上げしないと継続して販売できなくなる

【小売業】

- ・タイヤ価格の再値上げ
- ・コスト高
- ・石油製品の調達
- ・景気停滞
- ・生産・受注停止で材料・商品が入ってこない
- ・景気の先行きの不透明さが大きい
- ・商品の価格高騰、品不足
- ・売掛金の回収遅延
- ・物の価格が上がることによる消費の落ち込みが心配
- ・全てにおいて価格上昇のきざし。それによる値上げで購入の見送り
- ・すべてのコストアップにつながります。政治の在り方が問われる
- ・お客様に商品配達にてガソリンを多用しているの、原油高は影響を受ける。政府の補助もいつまでもあてにできないので、今後の不安
- ・上昇した原油高は中東情勢が好転すると下がってくれるのか
- ・燃料の価格上昇よりもナフサ不足による工事部材の入手困難の影響の方が大きい

【サービス業】

- ・価格改定や付加価値請求の業者間での実施がなされていない
- ・技術職員の高齢化もあり、人材の確保・技術継承の促進が急務
- ・ビジネスカジュアル化が進み、ワイシャツを中心にクリーニング点数が減少している一方で、人件費や資材・燃料代などの上昇が続き、取引先へ値上げをお願いしているがそれでも追いつかない状態。
- ・客足の回数の減少・客足が高齢化のための減少

第6章 業界の景気動向等その他のご意見

○業界の問題点について

【建設業】

- ・技術不足
- ・人材不足
- ・原油高を理由に材料メーカーが大幅な値上げを言っている。どうにか物価が安定する策を講じていただきたい
- ・若い人材が減少しており、働き手が高齢化している
- ・公共工事の設計単価見直し

【小売業】

- ・とにかく価格の競争が激しい
- ・人材不足
- ・人件費、光熱費が高騰しても本部のチャージは昔と変わらないところ
- ・石油税と元売りによる価格統制
- ・商圏人口の過疎化が進み、人口が減少すると業績が悪化する懸念がある
- ・LP ガス、灯油、重油の出荷制限
- ・自動車業界全体の価格転嫁が遅れている。そのために給料があまりあげられない。結果人手不足という悪循環
- ・観光業界にも影響ありと思う
- ・中国依存脱却
- ・仕入価格上昇により販売価格が合わなく、買い控えが多い

【サービス業】

- ・価格改定や付加価値請求の業者間での実施がなされていない
- ・技術職員の高齢化もあり、人材の確保・技術継承の促進が急務
- ・ビジネスカジュアル化が進み、ワイシャツを中心にクリーニング点数が減少している一方で、人件費や資材・燃料代などの上昇が続き、取引先へ値上げをお願いしているがそれでも追いつかない状態
- ・客足の回数の減少・客足が高齢化のための減少